

令和元年度

中学生長崎派遣事業 報告書



大府市

事業の概要

- 1 目的 次世代を担う若者を被爆地である長崎へ「平和大使」として派遣し、長崎原爆資料館や平和公園などの施設見学、平和案内人のお話を聴くなどを通して、戦争の悲惨さや平和の大切さを学び、同世代をはじめ、市民の皆さんに伝えてもらうことを目的とする。
- 2 期 日 令和元年7月26日（金）～27日（土） 1泊2日
- 3 派遣人数 8名
事務局として、地域福祉課職員2名が随行
- 4 選出方法 広報おおぶ等で募集し、選考会において生徒8名を選出
- 5 対象学年 第2学年
- 6 説明会 令和元年6月30日（日） 午前9時30分から
- 7 勉強会 令和元年6月30日（日） 午前10時10分から
- 8 感想文 報告書として編冊し、平和大使及び平和祈念戦没者追悼式参列者へ配布
市図書館及び中学校図書室へ設置。市ホームページへ掲載
- 9 報告会 令和元年8月9日（金） 午後3時30分から
平和大使8名による長崎からの帰還報告を行う。
- 10 その他 令和元年10月6日（日） 午前10時から
平和祈念戦没者追悼式（市主催）において、平和大使8名による「平和に向けたメッセージ」の発表を行う。

日 程

【委嘱状伝達式・事前勉強会】 令和元年6月30日（日）

時間 午前9時30分から12時
場所 市役所2階201会議室 ほか
内容 市長あいさつ、委嘱状伝達、自己紹介、事業説明、
事前勉強会（長崎被爆体験者による講話、
平和石碑・アオギリ2世の苗木見学、防空壕見学）

【派遣1日目】 令和元年7月26日（金）

7：30 大府駅集合
7：40 大府駅出発
8：13 名古屋駅出発〔のぞみ5号〕
11：33 博多駅到着
11：55 博多駅出発〔かもめ19号〕
13：47 浦上駅到着 長崎原爆資料館へ
～原爆落下中心地、平和公園、被爆したクスノキ 見学～
18：15 浦上駅前駅出発
18：30 宿到着

【派遣2日目】 令和元年7月27日（土）

8：20 宿出発 路面電車にて平和公園駅へ
9：00 浦上天主堂視察
9：30 長崎市永井隆記念館到着 見学後、路面電車にて長崎駅へ
11：00 長崎駅到着 長崎駅構内にて自由行動
11：20 長崎駅出発〔かもめ18号〕
13：13 博多駅到着 博多駅構内にて自由行動
14：10 博多駅出発〔のぞみ36号〕
17：30 名古屋駅到着
18：00 大府駅到着 解散

【長崎派遣報告会】 令和元年8月9日（金）

時間 午後3時30分から
場所 市役所2階206会議室・207会議室

【平和祈念戦没者追悼式】 令和元年10月6日（日）

「平和に向けたメッセージ」を発表
時間 午前10時から11時30分
場所 市役所地下多目的ホール

「平和大使」の紹介



足立 愛生



工藤 香奈



塩見 真弥



清水 大翔



木村 柚斗



石田 暁己



原田 航希



福元 里花

(順不同、敬称省略)

長崎での訪問先



【長崎原爆資料館】



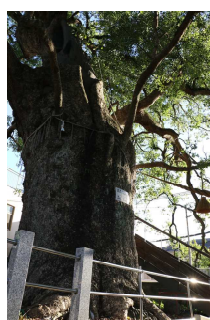
【平和公園・平和祈念像】



【浦上天主堂】



【平和公園・平和の泉】



【被爆クスノキ】



【長崎市永井隆記念館】



【原子爆弾落下中心地碑】

「平和大使」感想文

（平和大使の想いを尊重し原文を掲載していますが、一部修正しています）

平和は長崎から

大府中学校 足立 愛生

私は、7月26日と27日に平和大使として長崎を訪問しました。

長崎に着いて、まず向かったのは、長崎原爆資料館です。ここでは原爆に関する資料などが展示されており、ボランティアガイドの木原さんが案内をしながら、当時の詳しい状況についても語ってくれました。

長崎に原爆が落とされたのは、1945年8月9日、午前11時2分。この日は広島の時とは違い、雲が多い日でした。アメリカ軍は雲で目的地が見えず、唯一見えた郊外の浦上天主堂付近に目標を変えて落としたそうです。100万度とも言われている超高熱、そして爆風、放射線によって一瞬のうちに約7万4千人もの人が亡くなったのです。その事実、私を一気に重い気持ちにさせました。

次に向かったのは平和公園です。この公園の象徴ともされる平和祈念像は、とても大きな像で迫力があります。大きく掲げた右手は原爆を、横に伸ばした左手は平和を表しているそうです。私は、この像に、この空から落ちてきた原爆を忘れず、ずっと世界の「平和」が続くようにという強い思いがこめられているように思いました。

翌日は、永井隆記念館に行きました。永井氏は、自身が被爆しながらも命がけで被爆者達を治療し続けた人です。私は、我が身を顧みず、ひたすら救護活動続けた永井氏の生き様に胸を打たれました。彼は、戦争のない世界を願い続けてたくさんのメッセージを残しています。その中の一つに、

『平和を祈る者は、一本の針をも隠し持っていてはならぬ』
とあります。

世界では、今も核兵器は1万4千発以上あると言われています。なぜ、武器を捨てないのでしょうか。どんな理由があっても、これでは本当の「平和」は訪れません。

長崎での体験は戦争の悲惨さ、「平和」であることがどんなに幸せかを教えてくださいました。長崎での学びをこれからの世代に伝えていきたいと思います。

最後に、永井氏のメッセージの中からもう一つ紹介します。

私たちが、『平和』を守り続けるために大切にしたいメッセージです。

『原子爆弾は長崎でおしまい！

長崎がピリオド！

平和は長崎から』



ボランティアガイドのお話を聴く平和大使（長崎原爆資料館）



長崎型原爆 ファットマン（長崎原爆資料館）

平和な未来をつくるための第一歩

大府中学校 工藤 香奈

私は、7月26日、27日に平和大使として長崎県へ行きました。以前、広島県へ行き、原爆ドームを見たことはありましたが、長崎県へは行ったことがありませんでした。だから、今回は「何に出会い」、「何を見ることになるのだろう」という緊張を感じていました。

一日目は、原爆資料館、平和公園、山王神社の鳥居と大楠を視察しました。特に印象に残ったのは、原爆資料館で私たちを一番に迎えた、爆風で損傷し、爆発の時刻である11時2分を指したまま止まってしまった柱時計でした。私には、この時計が一瞬にして破壊された長崎の街を物語っているように感じました。そして、胸の中は、辛くて悲しい気持ちでいっぱいになりました。そう感じたのは、私だけではないと思います。私は、着いてすぐに、原爆の恐ろしさを思い知らされました。

二日目は、浦上天主堂、永井隆記念館へ行きました。浦上天主堂の被爆したマリア像は、人間の愚かさを嘆いているかのような悲しい表情でした。それを見て、戦争は絶対に起こしてはならないと強く思いました。

1945年、広島に続いて起こった長崎の悲劇。現在では、核兵器が世界で約1万4千発以上所持されています。そして、核兵器によって被害を受けた人は日本人以外にもいます。私は、長崎に行くまで本当の幸せとは何か、深く考えたことはありませんでした。しかし長崎に行って、今、毎日を普通に過ごせるのは、日本が「平和」だからだと気付きました。これからは、それを当たり前のことだと思わず感謝して過ごしたいです。

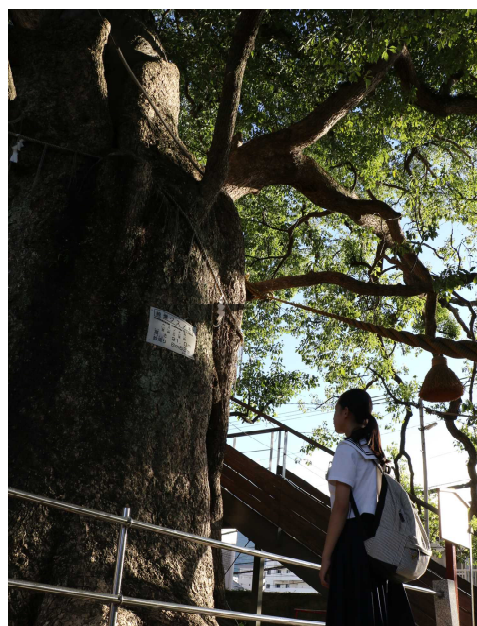
また、私にはすべきことがもう一つあります。それは、今回学んだことを後世に伝えていくことです。戦争体験者は年々減ってきています。私は、今回学んできたこと、長崎に行かなければ分からなかったことを多くの人へ伝えていきたいです。そして、平和大使としての役割を果たし、「平和」な未来へと繋いでいきたいです。



平和学習の様子（長崎原爆資料館）



平和の泉（平和公園）



被爆クスノキ（山王神社）

心が揺らいだとき

大府中学校 塩見 真弥

私は、大府市の平和事業の一つである「平和大使」の一人として7月26日金曜日から7月27日土曜日にかけて長崎に行き「平和」とはなにか、昔あのときなにがあったのか、色々な場所を視察しました。

7月26日は長崎原爆資料館、平和公園、被爆クスノキ、山王神社一本柱鳥居を視察しました。特に、印象に残っているのは、長崎原爆資料館です。

1945年8月9日の11時2分、長崎に原爆が落とされたときに止まった時計がかざられていました。思ったこと、感じたことは沢山ありますが、一言で表すと「恐ろしい」ただそれだけです。

他にも、色々な写真がかざられていましたが、どれも戦争の恐ろしさが分かる一枚でした。誰も望んでいなかった戦争は、一瞬にして多くの命を奪いました。あの日、なにがあったのか改めて詳しく知ることができました。

もし、あのときなにかをしたら変わったのか、そう言われるとハッキリとは分かりません。でも、今を大切にする、しなくてはならないことを深く実感することができました。7月27日二日目は、長崎市永井隆記念館、浦上天主堂を視察しました。浦上天主堂とは、キリスト教カトリックの教会です。一番印象が強かったのは、被爆マリア像です。1945年の原爆投下があり、浦上天主堂は倒壊し、終戦後にマリア像の頭部が見つかったそうです。マリア像には戦争の跡が刻まれており、「戦争などしてはならない」と言っているようでした。

今回、このような機会で長崎に行き、色々学べたことは絶対に忘れません。「平和」とは、一人では作れません。みんなが心を一つにし、作り築き上げるものだ、この派遣を通して色々なことを学びました。

当たり前を感謝し、考えられる人になりたいです。今できることはなにか、この二日間で学んだことをみんなに伝えていきたいです。戦争などもうしてはいけない、今回の派遣を通して強く私に思わせてくれました。



平和学習の様子（長崎原爆資料館）



平和を願う千羽鶴



平和学習の様子（平和公園内）

長崎が教えてくれた平和

大府中学校 清水 大翔

僕は、原爆と聞くと広島がすぐに思い浮かびましたが、実は長崎の原爆投下のことも、「なぜ長崎に投下したのだろう？」と気にはなっていたし、長崎に行っていたことがなかったので、是非行きたいと思い、今回の長崎派遣、平和大使に応募しました。

サイレンが鳴り響いた朝の長崎の街に、次の一瞬で辺り一面が変わりました。これは、1945年8月9日午前11時2分、たった一発の原子爆弾により数えきれない人々が亡くなり、大きな被害や悲しみが生まれました。

戦時中の長崎は戦う船を製造したり、兵器の生産が盛んで、原爆を落とすことが米軍にとって有利だったため原爆が落とされました。

実際、長崎に行つての感想は二つありました。一つは、すさまじい爆風により多くの犠牲者が生じたこと。もう一つは、核兵器のない世界を目指していくこと。

長崎原爆資料館では、街が一瞬で破壊されたことを語る11時2分で止まった柱時計。原爆投下のきのこ雲。破壊力を知り、恐ろしくて悲しくなりました。

原爆は、多量の放射性物質を含んでおり、空気を吸っても、水を飲んでも、降った雨が皮膚に付着したりしても、大変な病気の白血病やがんになったり、または死んでしまったりし、生命に大きな害をもたらしました。

どれほどの悲しみが心から湧き出てくるのか、そして人間同士が痛めつけあうという、あつてはならない出来事だと思いました。

このころの誰もが口に出すことが出来なかった言葉。それは「戦争はいやだ。」「今すぐやめたい。」とっていたはずです。

いま、戦争とは違いますが、すぐ近くの朝鮮半島では北朝鮮が核兵器を保有しており、ミサイルの発射訓練をしたりしています。

日本は、唯一原爆を落とされ、その悲惨さや戦後の苦しさを知っている国のはずなのに、終戦から年数も経過し忘れかけられています。

まずは、次の世代に原爆・戦争のことを語り合うことです。

また、「平和」とはどういうものを一人一人が考えるべきです。

僕は、「平和」があるから今があると思います。原爆で亡くなった人達の思い

を胸に、原爆の恐ろしさを伝えていくことが平和への近道だと思いました。



平和学習（平和公園）



平和学習（平和公園）



平和学習（浦上天主堂）

想像力が導く平和への道

大府西中学校 木村 柚斗

この夏、僕達は長崎に行き、2日間にわたって平和公園、長崎原爆資料館、永井隆記念館などを周り、原爆について学びました。

原爆は、熱、爆風、放射線、この三つで建物を壊し、人の命を奪います。太陽の熱が約6,000度に対し、原爆が発する熱は100万度、300万度ともいう学者もいるそうです。

爆風は、コンクリートの固まりのような空気が飛んできて、建物はあとかたもなくなってしまいます。建物が消えてしまうまで、千分の一秒もかからないそうです。当時、あまり知られていなかった放射線によって、爆発のあとも、毎日200～300人が亡くなっていました。

長崎の原爆で約7万4千人、その後、原爆の関連死と合わせて約17万人亡くなりました。こんなに多くの命を奪った原子爆弾の重さは4.5トンです。その中心にある核爆弾は、たったの8キログラム。その周りにある爆弾で核爆弾を爆発させます。こんな小さな爆弾が、約7万4千人もの命を奪ったのです。

広島との死者数の差の理由も学びました。広島は、人口密集地に原爆が落ちましたが、長崎は郊外に落ちました。決して、爆弾の威力が違ったわけではありません。

空爆は国際法上、れっきとした犯罪だと教えていただきました。お互いが武器をとり、戦う意志を持った地上戦とは全く意味が異なります。無抵抗の市民たちを、爆撃によって死に至らしめるのは許されません。

「戦争は、どちらが正しくてどちらが間違っていたということではない。両方とも正しいか両方とも間違っていたのだ。」

という言葉を知りました。こんな残酷な原爆で終わった戦争は、絶対に両方とも間違っていたと思います。

私の両親はもちろん、私の祖父母も戦争を知りません。今、僕達が「平和」のために出来ることはなんなのでしょうか。まずは「知る」ことだと思います。

74年前、広島と長崎に落とされた原爆のこと。第二次世界大戦のこと。多くの大人達が誤った選択をしたということ。

今回長崎に行って、僕は初めて知る事だらけでした。大府に帰ってきて、家族に話をしました。色々と学んだことを話すと、父も母もとても驚きながら聞いてくれました。

74年前のあの日、こんな風に穏やかな日常を過ごしている家族の姿を「想像」することが出来たら、その頭上に原爆を落とすことなんて出来なかったでしょう。

世界を平和に導くのは、「想像力」だと僕は思います。性別、国、年齢、宗教、思想、それぞれ立場の違う人間がたくさんいます。皆が自分とは違う立場の人のことを、「自分がそちら側だったらどう思うのか」と想像力を働かせることができれば物事は、良い方向に進むのではないのでしょうか。

中学生の僕には、世界平和について大それたことは語れません。でも、相手の気持ちを想像することはできます。家族、友達、先生、まずは自分の周りにいる人達を思いやり、笑顔で暮らす。皆がそんな風に日々を過ごせたら、それは「平和」な未来へとつながるのではないのでしょうか。

2016年5月27日、広島を訪問したアメリカのオバマ大統領のスピーチは、

「平和な未来に向けて努力を続ければ、未来において広島と長崎は『核戦争の始まり』ではなく、『道徳的な目覚めの地』として知られるだろう」

という言葉でしめくられています。

本当にそうであって欲しいです。

広島と長崎は、初めて原爆が落とされた地ではなく、平和の理念が生まれた場所だと、いつかそう語られる未来であって欲しいです。

この願いを忘れず、「平和」な未来に向けて努力を続ける一人に、僕はなりたいです。



防空壕を調べる平和大使

平和への一步

大府北中学校 石田 暁己

74年前の8月9日午前11時2分、長崎上空500mで、人類史上二度目の原子爆弾が落とされました。その日は、雲があまり無く快晴だったそうです。その空を偵察機が飛んでいたそうです。

その後、第一目標の小倉から視界不良を理由に長崎に目標を変更した米軍機が飛んで来て、原爆を投下しました。その瞬間、昨日と同じように続くはずの日常生活は生き地獄へと変わり、約7万4千人もの命が失われました。

「あつい」「いたい」「くるしい」「たすけて」「しにたくない」長崎原爆資料館に展示してあった写真や物からは、そんな思いが伝わってきました。何故、どちらも同じ人間なのに、このような非道な行いが出来るのだろう。投下した人もやりたくてやったわけではないだろう。そう思うと、戦争という物の「悲惨さ」、「理不尽さ」、「残酷さ」をまざまざと感じました。

二日目に訪れた浦上天主堂からは、長崎の街を見渡すことが出来、その向こうにはいくつもの山々が見えました。この光景が、たった一つの爆弾が落ちてきたせいで焼け野原となり、何も残らなかったというのはとても信じられず、あの時、原爆さえ投下されなければ、展示されていた写真のままの建物が残っていたらうに、と昨日に続いてやり切れない気持ちになりました。

今回訪れた長崎は、とても美しい街でした。まるで74年前にあったことなど、無かったかのように穏やかで「平和」でした。

しかし、長崎原爆資料館やボランティアの人の話にもあるように、一つの街がたった一つの核爆弾によって消えたのは紛れもない事実です。今回、見学した中には目を背けたくなるような物もたくさんありました。

しかし、ここで目をそらしてしまっては、かつての悲劇はただの記録となってしまう。悲惨な過去を風化させず、引き継ぎ、語り継いで戦争の愚かしさを伝えていく事、これが今回の長崎派遣の意義であり、平和への一步になるのだと思います。



平和学習の様子



浦上天主堂からの長崎の街



浦上天主堂から見える長崎の街

戦争の脅威と平和の尊さ

大府北中学校 原田 航希

兄が六年生の時、主人公を演じた学習発表会の劇が今でも心に残っています。原子爆弾が投下され全滅してしまった広島二中一年生の「その日の朝」の話でした。今の僕とちょうど同じ年頃の少年たちが、無残にも全員若い芽を散らした話です。食べ物もほとんどなく、戦争中で人手が足りないために軍需工場や畑で働き、落ち着いて勉強ができる日を楽しみに、夏休みもなくけなげに生きていた彼らが、原爆が落ちた日、どんな様子でその日の朝出かけ、どのようにして死んでいったのかが描かれた劇です。その劇は幼かった僕にはとても衝撃的でした。

今回「平和大使」長崎派遣募集を知り、僕は絶対に参加したいと思いました。なぜなら、僕は本当の「平和」というものを知りたかったのです。戦争の恐ろしさを知り、周りの人にも恐ろしさを知ってもらいたいと思ったからです。

長崎派遣の初日、長崎原爆資料館で「焼き場に立つ少年」という写真を見ました。原爆投下後の長崎で、亡くなった弟を背負った少年が、真っすぐ前を見て、歯を食いしばりながら弟が焼かれる順番を待っているという写真です。

考えてもみて下さい。頼れる人もなく、弟を焼くために順番を待つ少年の気持ち。今では考えられませんが、この時はいつ誰がそうなってもおかしくない状況でした。

二日目に訪れた浦上天主堂は、当時、東洋一と言われた大きな教会でした。長崎の爆心地から北東500mにあり、原爆の日、一瞬のうちに爆風で崩壊、堂壁の一部を残してほとんどが大破したそうです。1980年に復元され、今はきれいになって、僕が見た教会は多くのステンドグラスで彩られた美しい建物で、当時の悲惨な姿は想像できませんでした。

今回の事前勉強会で、長崎で被爆した90歳になる川口和義さんのお話を聞くことができました。川口さんは、浦上天主堂は取り壊さず、広島原爆ドームのように当時の姿で残した方がよかったとおっしゃっていましたが、僕も同じように思いました。もし、そのままの姿だったらとても強いメッセージになっていたと思います。

原子爆弾の威力は予想以上で、砂まで燃えるほどでした。

被爆死亡者は、長崎で約7万4千人、広島で約14万人です。大府市の人口が約9万3千人なので、たった一つの爆弾で大府市内の全員がいなくなるということです。

今現在、日本は「平和」かも知れませんが、戦時中は罪のない人の大切な命が奪われ、たとえ逃げ切れたとしても原爆の放射能を浴びて、今もなお、苦しんでいる人がいるのです。

長崎派遣を通して分かったことは、戦争の恐ろしさです。僕が予想していた以上に激しいものでした。たった一つの爆弾が、大切な命や笑顔を簡単に奪うのです。戦争は、恐ろしく残酷で許しがたいものです。

今回の長崎派遣で、戦争や原爆について学べば学ぶほど、今ある身近な毎日が、どんなに尊くてありがたいかを知りました。皆で笑い合ったり、普通に勉強ができること、好きなことに挑戦できる環境、母親が作ったご飯をおなかいっぱい食べられること、このような日常がただそれだけでありがたいことで、それこそが平和なのだと改めて気づかされました。

僕は、今までと、これからの人生を大事にして、今の平和に感謝して、さらにもっといいものにしていこうと強く思いました。そして、戦争の恐ろしさから目をそらさず、向き合って、今回学んだことを次の世代に伝えていきたいです。



川口さんのお話を聴く平和大使



熱心にメモをとる平和大使

戦争から今ある平和について

大府北中学校 福元 里花

私は、平和大使という役目をいただき、長崎県に行きました。私は、そこで「平和」が一番大事で大切だなと、改めて感じました。

一日目は、長崎原爆資料館に行って、原子爆弾の被害のことなどを知りました。一瞬で建物がなくなり、まわりは全て黒くこげてしまっていたそうです。

原子爆弾の被害で亡くなった方が、約7万4千人もいたそうです。何にも悪いことをしていません。何の罪もない人が、一瞬で約7万4千人以上の方が亡くなりました。昨日まで、「平和」に過ごせていた日が、一日のなかの一瞬の出来事で、すべてなくなってしまったのです。他にも放射線の被害で、苦しんだ人や亡くなった人がいます。このことを聞いたとき、戦争が起こると大きな被害がでて、幸せて「平和」だったのがあとかたもなく、黒くこげてなくなってしまうことを知りました。そして戦争は、恐ろしいことだと思いました。

二日目は、永井隆記念館へ行きました。永井さんは、医学博士でした。ですが、白血病になってしまい余命三年の命だと診断されたそうです。その日から二ヶ月がたち、原子爆弾がおとされました。そんな状況で、辛かったりするはずなのに、この永井さんは命がけで救護活動を行ったすごい人です。永井さんは、戦争の被害にあった人です。死にはいたらず、ケガだけで済みました。永井さんはケガをしているのに、救護活動を行いました。何度も意識を失いながらも、がんばっていたそうです。そして、約二ヶ月後に患者さんたちの診療を行いはじめたそうです。

原子爆弾がおちて約一年がたって、永井さんの白血病が悪化してしまいました。ベッドに寝たきりになりました。でも、患者を診断できないので、本を書いていたそうです。その本には、原子爆弾の恐ろしさや戦争のおろかさを書いたそうです。私はそれを、知ってこの永井さんは他の人にこのことを、知ってもらおうとしていたんだなと思いました。

私は、この二日間で大事なことを知り、学ぶことができました。今、私たちが楽しく過ごせているのは、「平和」だからなんだと改めて思いました。今は、「平和」が当たり前ようになってきているので、この「平和」な毎日に

感謝したいです。

だんだん戦争のことを、他人ごとだと思い、忘れられそうになっている人もいます。なので、この長崎派遣を通してたくさんの方に、戦争のことを深く知ってもらいたいです。



平和学習の様子（長崎市永井隆記念館）



平和祈念像の前で（平和公園）

平和都市宣言文

緑香るにぎわいの中、子どもたちの笑い声が響き、汗流し働く若者の姿や地域で活躍する元気な高齢者の姿が目映るまち、健康都市おおぶ。大府市は、戦争のない平和な社会のもと、健康都市づくりに取り組み、着実な歩みを続けています。

世界の恒久平和は、人類共通の願いであり、日本国憲法の普遍の原理です。しかし、今なお世界各地で、核兵器の保有、テロ行為、武力紛争などの平和を脅かす様々な問題が起きています。

先人から引き継いだかけがえのない平和のバトンを守り、次の世代の子どもたちにしっかりと渡していくことは、今を生きる私たちの果たさなければならない重大な責務です。私たち大府市民は、一人ひとりの命を大切に、核兵器、テロ行為などの脅威のない平和な社会の実現を強く訴えます。

日本国憲法の公布から 70 年目の節目の年に、恒久平和とあらゆる争いのない社会の実現を願い、ここに「平和都市」を宣言します。

平成 28 年 9 月 27 日 大府市



「平和都市宣言」石碑（平成 29 年 9 月 1 日設置）